

令和4（2022）年度 生涯学習・社会教育関係職員研修Ⅱ 実施報告③

実施日：令和4年9月7日（水）

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、受講者間の間隔を十分取るなどの対策をとり、実施しました。また、事例発表はオンラインで実施しました。

○ 事例発表「町田市障がい者青年学級の取組」

東京都町田市生涯学習センター係長 小泉 淳 氏、主事 河井 優幸 氏

町田市の取組は、文部科学省「学校卒業後における障害者の学びの支援に関する実践研究」の平成30年度と令和元年度の対象となりました。また、障害者の学びの機会である「青年学級」自体は昭和49（1974）年開設と約50年の歴史があります。今回は、青年学級の様子、そこに参加する障害者の活動の姿や変容、青年学級の運営を支えるボランティアの想いや担当者としての考えなどについて話がありました。

○ 事例発表「NPO法人障がい児・者の学びを保障する会の取組」

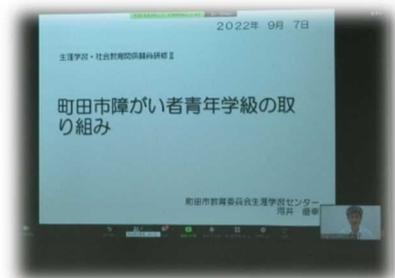
NPO法人障がい児・者の学びを保障する会代表理事 大森 梓 氏

大森代表は、第2日の講師を務めた平井先生同様、文部科学省「障害者の生涯学習の推進を担う人材育成の在り方検討会」の委員を務め、入門ガイド・事例集「共生社会のマナビ」も執筆しました。今回は、大森氏が代表を務める会が取り組んでいる活動の様子について話がありました。また、練馬区障害者計画（令和3年度～令和8年度）の策定に、会に所属する者が参加した経緯などについて説明がありました。

○ 協議「障害者の生涯学習の推進を目指して」

総合教育センター職員

グループに分かれ、最初は2つの事例発表の感想と今後の参考になることについて意見交換を行いました。次に、受講者の協力を得て実施したアンケート結果などを参考に、障害者の生涯学習を推進するために大切なことや求められていることなどについて話し合いを行いました。最後に、一人ずつ当研修に参加して学んだことや気付いたことなどを発表し、受講者全員で本研修から学んだことの共有を図りました。



☆受講者の声（アンケートから）

- ・多くの障害者が学ぶ機会を求めていることが分かりました。また、2つの事例から関係者が障害者の意思を尊重していることが印象に残りました。
- ・障害者の学習ニーズを把握し、福祉部局との連携を模索したいと思いました。
- ・障害者自身の声を聞き、課題を見つけることの必要性を感じました。今回の研修で学んだことを業務に生かそうと思います。
- ・各市町の実態を調査し、障害者の生涯学習を推進することが重要であると感じました。
- ・当初は障害者の生涯学習についてイメージすることができませんでしたが、研修に参加することでニーズがあることや実施することの難しさを理解しました。少しずつ業務に生かしていければと思いました。

研修内容の詳細に関するお問い合わせは栃木県総合教育センター生涯学習部まで
TEL:028-665-7206 e-mail:skc-syougai@pref.tochigi.lg.jp